

議長・副議長選挙 2人が決意を表明

議長及び副議長選挙では、候補者の意志を明確にしてもらうとともに、開かれた議会を実現するため、各議員が表明内容を聞き、その上で投票したいとの意向から、これまでになかった候補者の決意表明が行われました。議長選挙には吉田一政議員、副議長選挙には齋藤和人議員が演壇に立ち支持を訴えました。

地方自治法上では、本会議中の議長選挙・副議長選挙において、立候補や決意表明ができないため、休憩し議場において決意表明が行われました。その後、本会議を再開し2選挙ともに無記名投票による選挙を実施し、議長選挙では吉田一政議員、副議長選挙では齋藤和人議員がそれぞれ26票の満票で選出されました。決意表明の内容は、次のとおりです。

議長選挙 決意表明

吉田 一 政 議員

議長選挙に立候補することにあたり、私の決意を申し上げます。

新生伊達市が誕生して、現在で5年目になります。合併前、市民の皆様は5町が合併すれば、社会資本の整備も進み、福祉も向上し、住み良い市になるものとバラ色の期待をもたれたと思います。

しかし、5つの町が合併したのですから、合併時はそれぞれの町の行政組織、形態、福祉に

対する対応、条例、あるいは補助金制度等それぞれバラバラでありました。

市はこの4年間で、それらを整備統合し、そして公共料金の一元化に努力してまいりました。また、市職員の人事交流を図りながら合併に対する意識を高めてまいりました。優秀な職員が揃っておりますので、この4年間で人事面でも一体化がなされたと思います。

しかし、1月の市長選挙では、合併の期待度が大き過ぎて、あのような僅差の結果になったと思っております。これからの4年間は、合併の効果が期待できる伊達市発展の基礎を築かなければ

会派制度が新たにスタート

伊達市議会における最高規範として「伊達市議会基本条例」が昨年10月1日、施行されました。

この条例では「議会及び議員が、より一層市民からの信頼に応えるため、積極的な情報の公開を通じて説明責任を果たし、議会の諸活動への市民参加のもと、議員相互の自由かつ適当な議論を展開しながら、市政の論点を明らかにして、政策立案及び提言を積極的に行っていくかなければならない」としています。

この中で公平性や透明性、信頼性を重視する議会運営等、また、議員は市政の課題全般について市民の意見を的確に把握するとともに、不断の研さんによって市民の代表にふさわしい活動をするなど、議会及び議員の活動原則が定められました。そして、平成22年4月1日からは議員が議会活動を行うため、2名以上をもって会派を結成することができるようになりました。会派は政策を中心とした同じ理念を共有する議員で構成し、議会運営及び政策立案に関して会派間で調整を行い、議会内の合意形成に努めていくことになりました。

会派代表者会議を新たに設置

今年4月1日、「議会同派及び代表者会議規程」を新たに定め、各会派間の意見調整、連絡及び協議を行うため議会同派代表者会議が設置されました。

代表者会議は議長が招集、議員3名以上で構成する会派（交渉会派）の代表者と議長及び副議長で組織されます。会派の代表者は3名ごとに1名が選出され、会議に出席します。したがって所属議員が多いほど出席できる代表者が増えることになりました。

また、会派代表者会議には、議長が必要と認める場合に限り交渉会派に所属しない議員の出席を求め、発言をさせるようになります。

代表者会議では、次の事項を協議します。

- ① 一般選挙後の初議会に関する諸事項。
- ② 会派に関する事項。
- ③ 議会の人事に関する事項。
- ④ 各種委員会等に関する事項。
- ⑤ 議会における申合せに関する事項。
- ⑥ 発議案の検討調整に関する事項。
- ⑦ 議員活動に関する事項。
- ⑧ 政務調査費に関する事項。



伊達市議会議員、2期目の吉田一政です。

ればなりません。

市町村等の自治体の発展のひとつには、人口増加を図らなければなりません。伊達市合併時は、人口7万人でありましたが、少子高齢化が進み、現在6万8千余の人口であり、減少傾向にあります。

幸い、この伊達市が人口増加を図る余地は、十分に地形的に備わっております。それは国道が東西南北に通じ、JR線・阿武隈急行の鉄道が走り、近くには東北自動車道も通るなど交通の利便性に恵まれた環境にあります。その条件を生かし、大型商業施設、優良企業の工場誘致、農業面では、伊達市の特産物である果物・野菜のブランド化を図り、農家経営の安定化を目指すのが大事であると考えます。

そうすれば、若者の働き場が増え、この伊達市に定住し、子供たちの大きな声の溢れる市となると思います。

さらに、財政面での収入が増え、ひいては我々が求めているバラ色の合併も実現可能となります。

また、現在核家族が進み、お年寄り世帯が多くなっています。近くに若い家族がいると、お年寄りに安心感を与え福祉の向上にもつながります。

これからの伊達市発展の基礎

づくりの一助に、私はなりたいと思っております。

議会だけでは実行不可能です。市当局と協力し、議会としてのチェック機能を発揮しながら実現に向けて進んで行く覚悟であります。

議会においては、議会活動を活性化するため、「議会基本条例」が制定されました。これから本格的に運用されることになりませんが、基本条例に基づき、市民の方々に分かりやすく、そ

副議長選挙 決意表明

齋藤和人議員



私、齋藤和人は副議長選挙にあたり、立候補の決意を表明します。

私は、「伊達市議会基本条例」

して開かれた議会にしたいと思っています。

私は、議長任期中これらのことを実現するため市当局、議員の皆様とともに精一杯努力する覚悟です。

この度の議長選挙で、私の所信をご理解いただき、議員皆様のご支持、ご支援をお願いするものです。よろしくお願い申し上げ、立候補の決意といたします。

の精神に則り、二元代表制である一翼を担う伊達市議会が真に市民の負託に応えていくために改革を進めなければならないと思っております。

また、合併の理念である「伊達 織りなす未来ひとつの心」の実現を目指すとともに、伊達市の発展を図り、市民の安全安心のために努力することを決意し、副議長に立候補をいたしました。

どうかよろしく、お願い申し上げます。

改選後6会派が届出

今後、右記事項については、これまでの全員協議会ではなく、会派代表者会議が中心となって調整を図っていくことになっていきます。

改選後、議員の任期がスタートした5月1日、6つの会派から届け出がありました。

また、いずれの会派にも属さない議員は4名という状況となっています。

会派議員名簿 H22.5.1

会派名	人数	代表者	所属議員	代表者数
フォーラム伊達	4名	滝澤 福吉	大和田俊一郎 佐藤直毅 吉田一政	1名
創志会	3名	安藤 喜昭	菅野與志昭 佐々木彰	1名
志政クラブ	7名	齋藤 和人	清野公治 原田建夫 熊田昭次 大橋良一 松本善平 小野誠滋	2名
日本共産党伊達市議団	2名	佐々木英章	菅野富夫	0名
きょうめい	3名	八巻 善一	高橋一由 菅野喜明	1名
民の会	3名	佐藤 実	佐藤 勲 丹治千代子	1名

「会派に属さない議員」

菊地 邦夫 大條 一郎 中村 正明 半澤 隆

新しい広報委員

議員の改選とともに議会広報委員も新しいメンバーとなりました。これまでは4つの常任委員会から4人の委員長、それに議長と副議長が加わり合計6人で構成していました。

今回は、議会広報を活発にしていこうということから、会派からそれぞれ希望者が名乗りを上げ、それを議長指名するという

形で選出されました。分かりやすい紙面づくりに努力していきます。よろしくお願ひします。

議会広報委員会

(平成22年5月1日)

委員長 佐藤 実
副委員長 佐々木 彰
委員 菅野 喜明
委員 佐藤 直毅
委員 大條 一郎
委員 中村 正明